

保育士に聞く、育児のための環境づくり

スマイル子育て

子育て世代が働くことを応援するため、市は保育環境の整備を進めています。今回のテーマは、「子育てしやすいまちづくり」。女性の社会進出が進む中で、「保育」は今後さらに重要になってきます。そのためにはどのような環境づくりが必要なのか。市内の私立保育園で働く現役保育士の大塚さん、白田さん、桑子さんの3人に伺いました。



子どもの成長に毎日感動

市長 みなさんこんにちは。新春対談とあって、今日は華やかな感じですね。少し緊張するなあ。

3人 よろしくお願ひします（笑）。
市長 私は教員免許を持っていないのですが、もしそういう職場に勤めるとしたら、幼稚園か保育園で働きたいと思っていますよ。

桑子 えー、意外です。本当ですか。
市長 そう。かわいい子どもたちに頼りにされるっていうのは充実感があるだろうな、と思ったんです。皆さんはどうですか？

白田 そうですね。子どもたちの成長を間近で感じられるのはうれしいですし、毎日子どもたちの笑顔を見られるのは幸せです。

大塚 子どもと一緒に遊ぶことも楽しいですよ。日々の成長が手に取るように分かって、それに感動することたくさんあります。

桑子 自分は小さいころから保育士になるのが夢だったんです。これまでに0歳から5歳までの子どもを見させてもらって、自分自身も成長できたんじゃないかな。保育士になって良かったと思います。

市長 でも大変なこともありますよね。子どもはよく動き回るから、毎

日が運動会みたいな感じでしょうか？

桑子 座っている時間も無いくらいですよ。

市長 子育ては重労働ですからね。それに、これは保育園だけでなく、教育現場全てに言えることなんですけど、最近は保護者の方が厳しくなっていますよね。充実感はあるのでしょうか、責任も重くなっている。

白田 保護者への対応で心が折れてしまい、辞めてしまう保育士もいると聞きます。

大塚 それに責任の重さに比べて、お給料などの面で保育士の処遇は低いのかな、と思うことがあります。
市長 そうなんです。だからなり手

が少なくなってきた。皆さんのような頑張る保育士を採用するというのが課題になっているんです。

保育士を増やすためには？

市長 女性が働きやすい環境を整えるためにも、保育環境は非常に大切です。そこで5月から始めたのが、子どもが保育園にいつでも入れるように、市が補助をして保育士さんをあらかじめ多く採用するという仕組みです。保護者から「入りたい」と話があったら、すぐ対応できるように変えたんですね。

桑子 急に就職先が決まったりで、途中入所された子の保護者からは、「本当にありがたいです」という話を聞きます。

市長 それは良かった。ところが、困ったこともありました。いざ採用しようとしたら、なり手がいないんです。今年度は何とか採用できましたが、来年度以降はどうなるか分

保育士になって

自分自身も成長できました

●桑子 淑美さん

保育士歴7年。敬西寺保育園（江木町）勤務

子育てには地域の方のサポートが欠かせません

●白田 可奈子さん

保育士歴12年。清水坂保育園（吉井町吉井川）勤務

らない。そこで保育士を目指す学生に高崎の保育園を知ってもらおうと、園長先生や経営者の方と話し合って11月に「職場体験バスツアー」を行いました。

桑子 私と大塚先生も説明者側で参加しました。

市長 どう感じましたか？

桑子 保育園の雰囲気知らない学生もいたので、本当に良い機会だったと思います。ツアー後は「保育園に就職したくなりました」と言ってくれた方が何人もいて。うれしかったです。

大塚 やっぱり保育の現場を見てもらうことは大切だなと感じました。それに今度は、私たち現役保育士が学校に向いて話をしたらいいんじゃないかなと思いました。

市長 なるほど。保育士さんの出前講座ですか。面白いアイデアですね。
大塚 もっと多くの学生に話を聞いてもらえますから。その上で職場体験をすれば、さらに効果が上がるん

じゃないかと思っています。

もっと子育てしやすいまちに

市長 皆さんは親御さんたちから、いろいろな悩みを聞いていると思いますが、最近ではどのようなものがありますか？

白田 「子どもが急な病気になると困る」というお母さんの悩みはよく伺いますね。

大塚 近くにおじいちゃんやおばあちゃんがいれば協力してもらえらるのでしょうが、いない方は本当に大変な思いをしています。

市長 親が忙しいときに限って、子どもは急に熱を出したりするからね。高崎では病気の子どもの預かりを2か所ですべてしていますが、来年度以降は、定員などを増やしていきたいと思っています。

白田 それはいいですね。助かる保護者も多いと思います。

大塚 職場でも理解が進んで、急な

私たちが現役保育士の話を多くの学生に聞いてもらいたい

●大塚 智子さん

保育士歴13年。城之内保育園（浜川町）勤務

声をかける心配りが優しい社会をつくっていく

●富岡 賢治市長

誰もが安心して子育てできるまちづくりについて考えている

ときでも安心して休めるような環境作りが進むといいですね。

桑子 病気の子どもの預かるサービスを知らない方もいます。そういうときに、地域にいる方々の助けが大切だと思います。「こういうのあるんだよ」と声をかけてあげるのもいいんじゃないでしょうか。

市長 そうそう。子どもを抱えている方がいたら、ドアを開けてあげたり、道を譲ったり。ニコッと笑って声をかけたりすれば、親もうれしくなりますよね。そういう雰囲気になれば、もっと子育てがしやすい、優しい社会になるんじゃないかな。

白田 そう思います。お母さんたちが安心して子どもを預けるには、地域の方のサポートが欠かせません。
市長 本当にそのとおりです。保育士さんの働く環境が良くなれば、子育て環境も良くなるはずですよ。これからも一緒に頑張っていきたいと思います。本日はありがとうございました。3人 ありがとうございます。

